

## 太田ゆかりはこう思います! ②



現市庁舎のコンクリートは、劣化していません!

鳥取市の行った耐震診断報告によれば、コンクリートの中性化深さは殆ど“0”でした。

竣工から50年経たコンクリートの中性化深さが“0”というのは、驚異的です。コンクリートの鉄筋の腐食防止機能が施工当初と殆ど変わっていない。

中性化は、コンクリート部材の中に炭酸ガスが侵入して進むのですが、1964年の竣工から既に約50年経て劣化の兆候が認められないのは、施工が大変丁寧で、大変密度が高いことを示しているのです。

コンクリートがバケツ打ちからポンプ打ちに変わった今日では同じような高密度のコンクリートを打設するのは難しいので、現市庁舎は大切な歴史遺産です。

今後十分長期(100年以上)の使用に耐える建物です。